

特集：キャブストは問う、人間はナニモノなんだ!? と。

「毎日残業して週末はバンドをやって、“しんどいなあ”みたいな

●はいはい。
 永友：“この表現を何か上手い言い方しよう”とかすら無かったです。それに、何となく音楽が消費されていくことに対して苛立ちもあつたし。

●「ダウンロードじゃなくてワシらのCD買え！」と？
 永友：それもあはし(笑)、歌の寿命が1週間2週間の世界じゃないですか。

●「ウィークリーチャート何だ！」と？
 永友：チャートを見るのは好きなんですけどね(笑)。なんか1週間2週間の数字でしかなくて、それで次の曲が出たときにその数字も無くなっちゃってることがよくあって。音楽ってそういうモノじゃないと思うんですよ。心の中には一生残っていくモノだから、そこで諦めたくないという思いもありましたね。それにすぐジャンル分けされちゃったりとか…。僕なんかよく新曲を聴いて「ああ、こんな感じね」とって思ってましたりするんですけど。

●「あ、WEEZERっぽいね」みたいな。
 永友：そうそう(笑)。そういうモノを飛び越えたいっていう気持ちもあつた。

●以前のインタビューで“共感”という現象に関して「アーティストとして、100人中100人全員に伝わるような表現を選ぶのか、100人中1人でもいいからすぐ突き刺さる表現を選ぶのか」という質問をしたと、永友さんは「パラスを取ろうとしていた」と言ってます。でも「人間ナニモノ!?」に関しては、“共感”という現象とは全然別の次元で追い求めたような感じでしょうか。

永友：そうですね。“共感”してもらう”とかあまり考えてなかったです。とにかく聴いた人の中に土足で入り込みたいっていう。取り込みますよ。

●今まではどちらかと言うと「友友くんはいい人だけど、付き合うのはちょっと…」みたいなところがあったのかも知れないですね。

永友：そうですね。今まではご両親に「夜分遅くに恐れ入ります…」っていうところから始めてたんですけど、そうではなくてご両親に「娘さんとセックスさせてください。」っていう(※17)。

●アハハ(笑)。「人間ナニモノ!?」が持つ、そういった衝動的な強さは、歌詞ももちろんんですけど、サウンドからもビシビシ伝わってくるんですよ。例えばこの曲はツインドラムで、Steve Jordanと菊住くんが叩いてるんですね。

菊住：そうですね。ツインドラムにしなきゃいけない、この曲のアレンジがある程度完成して、NYに行つて録るうかっていう段階で出てきたアイデアで。「人間ナニモノ!?」はとにかくエネルギーをすごく持っていると感じています。永友さんが歌詞を書いてくれて、自分もアレンジを完成させたときに、とにかく曲にもっとエネルギーを注ぎたくて。

●なるほど。
 菊住：そこで「一緒にドラムを叩いたらどうだ？」という話をしたら、Steveも「やるやろ!」と。

永友：そこでもやっぱり対決なんですよ。曲を作るときも“Steveはこの曲にどう応えるんだ?”という勢いで作つたと言いましたけど、ドラムも右と左でガチの対決をしようよ。

●確かにヘッドホンで聴けばわかりませぬ(※18)。
 永友：実際のところ、もすでに緊張感でしたよ。一発録りだったから、まだ一発勝負だったし。

●当の菊住くんはどうでした？
 菊住：それこそ聞ろ感じてきましたね。セッションみたいな感じで、Steveが入って音作って3回くらいしか合わせなかったんですよ。3回目で「もうこれはすごいのが録れた」と。もちろん3人でベーシックな部分は作り上げただんですけど、やっぱり1人加わると全然変わるんですよ。

●なるほど。
 菊住：それにSteveはあまりキメを覚えない人だったということもあって(笑)、こっちが引っぱっていきこうという感じで録ったんです。

●キメを覚えない人なんですか？
 菊住：キメとかあまり入れないんですよ。だからSteveはシングルなリズムを叩いてて、僕は割と細かいパターンを叩いて。

●はい。
 菊住：それに、レコーディングでは音響的な問題があるから楽器を離して配置するんですけど、Steveのドラムの隣に僕のドラムを置いて。

●事前にあまり確認したりせずに、アドリブ的に進めたんですね。
 菊住：もちろん最初にデモを送った段階で「このファイルは面白いからそのままいこうぜ」みたいなことはありましたけど、大半はその場のノリで。

●そうだったんですね。
 菊住：もちろんすごいドラマーなんですけど、全員がひとつの目標に対して向かって行く感じがすごくあって。Steveが出てくるノリと僕が出てくるノリはちょっと違うと思うんですけど、それが混じって結果的に「人間ナニモノ!?」のグルーヴになったというか。レコーディングのときはなってるいうか…なんだらう…っっっ飛んでるっていうか。

●オルガスムスを迎えていたと。
 菊住：そうですね。オルガスムス状態でしたな。

●一方、梅田くんはどうだったんですか？ ツインドラムというところもあって、ベースも今までは違う感じだったと思うんですけど。
 梅田：いや、俺的には別に何も考えずに演奏したんですけど(※19)。

●あ、そう…なんだ(笑)。
 一同：(笑)。

梅田：最初にデモを作った段階で設計図的には充分あって、要するにそれか実現出来ればいいと思って。Pro Toolsで作られて、サウンド面である程度見えてきたんですけどまだ歌詞が出来てなくて。でもその時に永友が「俺、明日までに書いてくる」と言って書いてきて(※20)。

●はいはい。
 梅田：それで歌詞を見たときに、すごく力のある言葉が入ってるって感じて。今までの歌詞みたいに、何かの世界観や物語とかじゃなくて、自分が真ん中に立つて大事なことを叫んでいるという印象が。あつた。

●確かにそういう歌詞ですかね。
 梅田：そこは俺らの演奏をどう絡ませるかという部分で、とんだ雰囲気を作っていくとか、どんな世界観を描くかとかはもう要らないって思ってたんですよ。強い言葉があるから、演出とか小技とかでどうこうするじゃなくて、思ったままというか、感じのまま…っっっスツしたりムカムカしたモノをドーンと演奏に出せばいいんじゃないかと思つたんです。

●なるほど。
 梅田：それをSteveと合わせたとき、アメリカ人と日本人という違いはあれど、Steveはファンクとか

ソウルとかのグルーヴをもともと持っている人だし、俺らはなんだろう？ …祭り囃子なのかなのかかわらないけど…そういう根源的なモノがあって、そういう深い部分っていろいろ説明なんか無くてでも伝わるみたいなんですよ。だから俺らの中にSteveが入って叩いてるも、バンドとしてすごく力が増すけど、俺の演奏としてはSteveが入ったからどうこうっていう感じでは無かったです。ただ楽しかったんですよ。楽しくって夢中になって、気持ちよくなりすぎて止まるところをちゃんと止まれないけど(笑)、それででもOKっていうか。

●そういうことですね。
 梅田：最初に「最近のキャブストは生々しくて人間臭い」と言ってくれましたけど、すごく人間臭いというか獣臭い(※21)というか。生々しいバンドサウンドになりましたね。

●なるほど。Steveも含めて、メンバー全員が裸と裸でぶつかり合うようなプロセスを経て完成したんですね。
 永友：そうですね。

●ところで「人間ナニモノ!?」のスタート地点となった、永友さんの「人間は何なんだ？」という怒りという疑問は、曲を完成させたことにより解決したわけじゃないですか？
 永友：そうですね。結局は“?”のままっていうか、この曲では怒りと疑問を吐き出しただけです。でもこの曲をこいたドラムで演奏したんですけど(※22)、歌う度に曲を作ったときと同じ気持ちになれるんですよ。もう1回怒っちゃ(笑)。そういう歌ですね(※23)。

●あ、なるほど。
 永友：「にんげん! にんげん!」っていう連呼も、例えば「人間は駄目な存在なんだから、運が悪いこうよ。正しく生きていこうよ」というメッセージを発信するというよりも、なんか一緒に「にんげん! にんげん!」ってやってくれてることで、その人の中の“人間”をもう1回呼び覚まして欲しいっていう確めがあったとしたら「いや、違うだろ? もっと怒っていきよう!」っていう。

●はいはい。
 永友：「もっと煮えたぎっていきよう」っていう、そういう部分呼び覚ます歌になって欲しいんです。だから答えを出したいというわけではなく、眠っていた何かを呼び覚ました。

●確かに「にんげん! にんげん!」という連呼を聴いたら、そもそも「にんげん」という言葉がどういう意味を持っているかすらもわからなくなってしまうすらかな(笑)。
 永友：そうそう(笑)。

●この曲が現時点で出来たということは、キャブストにとっては大きかったと思いますが、ブログを見る限りでは最近(取材は4/2)も永友宅で作曲りをしているみたいですね。
 永友：作りますよ。まさに「人間ナニモノ!?」が出来たことは大きかったというか、バンドとしてのハードルが上がつたということだと思ってますけど、梅田も守代も曲に対して色んな意見を出さうになったし、「いい曲っぽい」コード進行で、いい曲っぽいメロディでやることには何の意味も無いんだ”っていうことに気づいたというか。

●バンドとしての価値観に変化があったと。
 永友：うん。それよりも、もっと生き生きとしている曲というか、今の自分たちがグッと来てる感覚をすごく大事にするようになった。だからその分、これから苦しいことも今まで以上に多いと思うんですけど、でも変わってきてますね。生々しくなるとかと思えます。

怒りがあつたんだけど、でもあの曲を作って歌うことががんばれた!

●今後はどうなっていくんでしょうか？
 永友：今はアルバムを作ってる、その中には“人間はナニモノなんだ!”という問いを投げかけている、すごく大事な歌(「人間ナニモノ!?」)がもちろん入ってる。結局は、“僕らはなぜ音楽をやっているんだ!”というところなんです。

●はい。
 永友：“人間はナニモノなんだ?”と投げかけるのは、別に音楽じゃなくて、街中でアジェンションしてもいいわけだし、文章を書いてもいいし、映画とか表現でもいいわけだし。でも音楽は聴いた人のモノになるし、聴いた人は真似できる…歌えるんですよ。それは、映画とか漫画とかには無い要素だと思つたんです。“口ずさんで歌う”っていうことはすごいパワーだと思つたんですよ、その人の身体を動かしているわけですから。

●そうですね。
 永友：で、アルバムを作つたりバンドをやっていく中で、“人間はナニモノなんだ?”という問いに対する答えを探しているんですけど、そこで答えが見つかるかどうかはわからないんですけど、前に

進んでいくための希望みたいな力が音楽にはあると思つたんです。
 ●そのモチベーションという音楽をやっている理由というは、バンドを結成した当初と比べると変わってるんですか？
 永友：基本的には変わってないと思うんです。やり方という手法は変わってるけど、サラリーマンをやったり「マウンテン・ア・ゴーゴー」と作ってた時から。あの時は自分のために(音楽を)作ってたんですよ。

●自分のためにという？
 永友：サラリーマンで毎日残業して週末はバンドをやつて、「しんどいなあ」みたいな怒りという不満があつたんだけど、でもあの曲を作って歌うことががんばれた。

●でもあの曲を作ってるサラリーマンで…ちょっと想像がつかない(笑)。
 永友：さっきも言いましたけど、あの曲は“わかる人だけわかればいいや”と思って、その世界に人を引きずり込んでたんですけど、「今は人を引きずり込むのではなくもっとたくさんの人と向き合い、共感したい」と強く思うようになって、自分の中ではあっさり変わってきました。だからあくまで起点は変わってないというか。

●ああ、そういう変化ですね。だからあくまで起点は変わってないというか。
 永友：そうそう。あの曲を作ったことによって、僕は“音楽をやっていくことで何が愛されるかも知れ

ない”っていう希望があつて。でも「人間ナニモノ!?」なんか、こっちの世界にみんなを巻きずり込むっていうやり、みんなと同じ土俵で勝負するつもりで言葉を書いた。そういう風になってきてるとは思ってますけど、音楽を作つたり歌ったりすることで“未来は明るいぞ”っていう気持ちになるっていう基本的な部分では変わってないですね。

キャプテンズライダム

RELEASE INFORMATION

New Single
 人間ナニモノ!?



ヤァ!ヤァ!ヤァ!
 レコード
 AICL-1914
 ¥1,223 (税込)
 NOW ON SALE

※ライブ情報はHPをチェック!
<http://www.captainz-a-gogo.com/>

そろそろGWですねそうですねキャブスト註釈

- ※1：本来に当たった。
- ※2：原因は100%JUNGLE★LIFEにあった。インタビューがゲスト出演したキャブストのインターネットラジオ「フューチャーラジオ」第6回(4/12更新分)を観た人は、JUNGLE★LIFEが下ネタの元凶だということにお気づきのハズ。ちなみに、学生の頃からメンロウの中でちばん下ネタ発言が多かったのは永友。本日1日「田舎から出てきて、まず打ち解けるために下ネタで盛り上がる。人間関係の潤いを含めたいのもあって、そういう話から仲間になっていく…そういうこととありませぬ」とのこと。
- ※3：ロックの聴くなき探求、キャブストは振り回しているのである。
- ※4：ヨコチン：サポートギターの横山くん。年齢若くはキテレツなギタープレイでキャブストファンを魅了する。
- ※5：ピンチをチャンスにするバンド…キャブストはまるで芝生のようなものである。ちょっと違うか。
- ※6：JUNGLE★LIFE125号参照。AC/DCとアンガス・ヤングをリスペクトするBEAT CRUSADERSのG.カトリウウ監督のカヴァートリビュートアルバム。永友はカトリウウと同じ年。CSの番組がキリッで出た2人はAC/DCのエアニックな話術で盛り上がりつつ急接近し、レコーディングのスタジオにも遊びに行くほどの仲となった。カトリウウ曰く「取材で永友くんとの対談する機会があつて、10年の来日公演で買ったAC/DCのグッズを持ってきたのでおしとくれるのかと思つたら、単に自慢したかっただけらしい。しゃかり持って帰つた」とのこと。
- ※7：2006年10月にリリースされたシングル曲「恋するフレンジ」に関するインタビューでの「この曲はAC/DCサウンドを目指して作ったが、2年くらい先取っている感じがした。2年経つたら日本のバンドシーンでなくなっているんじゃないか」という永友の発言は、前述したAC/DCカヴァートリビュートアルバムのお見直しにも符合する。取材後、この事実に気づいたときは鳥肌が立ちました。ノストラ・聖乙・ダムスである。
- ※8：永友は2006年夏、プロユーザーと密に連絡を取るために携帯電話を持ち始めたが、もしあの時に携帯を持たなかったらこのトリビュートにも参加していなかった。
- ※9：DMVバンド界のマスターロ・キャプテンズライダムは、このように(劇的)によって新たな自分を発見するの。
- ※10：アーティスト写真「レコード会社がアーティストのプロモーションやHPなどで使用する写真のこと。基本的にリリースの度に撮影される。“ア写(あーしゃ)”と略す。
- ※11：世界一のドラマーとアーティストを呼ぶ合衆の永友。
- ※12：ちなみにこの曲も永友を連ねた、昨年永友宅の作曲り合宿でPro Toolsで作つたらしい。マウスで曲とベースとしたらシンコ3人で作った曲を、世界一に叩きつけたのである。
- ※13：前述した「恋するフレンジ」のテーマ。
- ※14：シングル「人間ナニモノ!?」のフライヤーの裏面に全文が掲載されている、熱く素晴らしい名文。
- ※15：代表曲「マウンテン・ア・ゴーゴー」は、2001年にはライブで演奏するようになり、音源としては2002年に制作した手書きCD「ノーテンツラフ」に初めて収録された。同CDには「ブッコロリー」と「舟」も収録。その後、「マウンテン・ア・ゴー

- ー」は松本隆主宰の期待レコードからデビューシングルとして発売される。
- ※16：“ランラン ランスがホームラン”という歌詞は当時、シュールドバイ界に衝撃を与えた。ランスとは87年に広島東洋カープに所属したリチャード・ランスのこと。ホームランが三振という博打性が高い助っ手外国人。
- ※17：あくまで親に言うところか永友スタイル(NAGATOMO STYLE)。
- ※18：右はSteve、左は菊住。ヘッドホンを履いて世界一のドラマー頂点対決が楽しめる。勝負の行方は…今回は両者一歩も譲らず引き分けといたところか。
- ※19：永友曰く「梅田はそういう復讐」。
- ※20：普段、永友は自宅キッチンでの流しの前にイスを置いて歌詞を書くことが多いらしいが、「人間ナニモノ!?」のときは椅子に没入するあまり、流しに片足を突っ込んで変な姿勢で書いていたという。他にも機転がったり、Tシャツを乳首が見えるほどくりや下でコタツにもたれて書いていたらしい。永友曰く「俺の恩返しは俺が“絶対に見えない下さい」と言った気持ちでわがわがする。見られたらイヤだからいろいろレベルではなく、見られなくともいい」とのこと。
- ※21：獣臭い：今のキャブストサウンドを表現する言葉としては適切だと思うが、「人間ナニモノ!?」という曲に関する発言なのでやっぱ間違っていると思う。
- ※22：4/1にSHIBUYA-AXで開催されたBEAT CRUSADERS presents “AC/DCトリビュート・ライブ救世軍”にて演奏された。「にんげん!」というキテレツなコールでフロアを盛り上げた。キテレツなパフォーマンスに衝撃を与え、トラウマを植え付けた。
- ※23：今はもうかなり真面目な話になったので、残念ながら以降は註釈を付けるスキが見当たらない。
- ※ちなみに1：シングル「人間ナニモノ!?」にはユニコーンのカヴァー「ベケベケ」のライブイブ(2008/1/23)@渋谷CLUB QUATTRO)も収録されている。同曲は2004年10月に広島島崎 QUATTRO で開催された「奥田民生後夜祭」に出演するためにカヴァーしたのがきっかけだが、その日にライブで演奏するのはあまりにも怖かったように、その直前に下北沢CLUB QUEで開催した音楽ライブとの合同企画イベント“スピールナイトおぼけナイト”にて、「すみません。民生生さん。民生生さんおさなライブがあるんで、今日ちょっと練習させて下さい」という前置きのあと、初めてライブで披露された。永友は「今更かたに謝りますよ。その前に集まったおさなを力に力にしていますよ」と深く反省している。そして、2008/1/23のライブはマネージャーのハンチン(女)が再婚社(でっち上がった)婚を告げたタイミングだったので、収録音源には「ハンチンおめでと〜」という永友のひと言も収録されている。
- ※ちなみに2：…と最近梅田も曲を作っているらしい。永友曰く「ロマンチックな曲だよ。“これが俺の本当の曲”という部分があるから、メロディがキラキラしてます。メロディは歌詞以上に聴かずに聞いてみるから」とのこと。この情報は、シングル「人間ナニモノ!?」に関する取材ではJUNGLE★LIFE独占取材というところを3人と約束した。もし他の雑誌などでこの話をしていたら、3人は約束を破ったことになる。
- ※ちなみに3：最近ハマっているモノは、永友は傑作TVの映画とゴジ助(生ゴミ処理機)、梅田はスーパーのポイントカード、菊住はカラートレピ…3人ももロックバンドとして難あり。

interview by: TakeshiYamanaka

なにがなんだかわからないモノを「わからない」と言えないの

はなぜだ？ その答えはキャブストが握っている……………のか？